

『子ども月間に際して～「ただあること」を喜び合う』 吉田真司

ある人が「三つの世界」について書いていました。一つは「大人の世界」。一つは「子どもの世界」。そして「神の世界」です。「大人の世界」——それは「仕事の世界」であると。仕事は人間生活に必要なもの。そしてそこにはいつも目的があると。しかしその目的ゆえに、時にその目的をさえぎるものを邪魔者扱いにする、と。そしてその目的は、得てして「自己中心」という軸で定められていて、他者が目に入らず、他者を疎外してしまうと。それがいわゆる「大人の世界」なのだ、と言うのです。それは「業績主義」と言えるかも知れません。大人の世界の論理は、いつも何かを「する」ことに重点が置かれます。しかしイエス様は言われます。「幼な子は『受け入れる』者なのだ」と。「子どもの世界」は受け入れる世界であり、そしてそのことに「神の世界（神の国）」があるのだ、とイエス様は言われるわけです。「大人の世界」、その業績主義、競争の原理は諸刃の剣であり、競争に勝ち抜く喜びというのは、いつもどこかに置いて行かれる不安がつきまといいていきます。いつも何かを「する」こと、「しなければならない」ということに心急かされて、そこに「ただある（存在する）」ということに喜びを見いだせなくなってしまうのです。

ユルゲン・モルトマンという神学者が次のように言います。「空の鳥が空気を必要とするように、魚が水を必要とするように、わたしたち人間はみな、互いに受け入れられることを必要とします」と。ローマの信徒への手紙15章にこうあります。

「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れて下さったように、あなたがたも互いに相手を受け入れ合いなさい」（15:7）と。イエス様はその懷に抱く対象を決して選り好みなさいませんでした。「あなたはいい」「あなたはダメだ」とは仰らない。誰でも、どんな人でも、そのイエス様のもとに駆け寄れば、受け止めて下さり、愛して下さり、赦して下さる、それがイエス様の十字架に表された神の愛であり、それが「神の世界（神の国）」なのです。イエス様は「子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福され」（マルコ10:16）しました。今月より再開した祝福後の子ども祝福の時に、そのイエス様の所作（御心）を思い、それに倣っています。

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>